○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始させていただきます。今回、私が出しているのは４項目、財政から観光、順次聞いていきたいと思います。

最初に、財政なんですけれども、ちょっと話はそれますけれども、先日、私は余りテレビを見ないんですけれども、特に夕方の時間等は見ないんですけど、たまたま「ドラえもん」というやつを子供と一緒に見ていました。ドラえもんにのび太君が泣きついてくるわけですね。何々が欲しいとか、何々が困ったとか。そしたらドラえもんがですね、いつもぽっけから便利なグッズを出すわけですね、そして解決していく。例えば、行政にドラえもんのぽっけはあるのか。あるわけがないですね。それはやりくりと、そして実行力、いろんなことでやっていかなきゃいけない。そういう便利な、のび太君が泣きついてきても、こういうふうなドラえもんのぽっけはありません。

だから、そういう中で、やっぱり一番考えなきゃいけないのは財政だと思っております。財政なくしていろんな事業はできません。例えば、今、子供の話しましたけれども、子供が何々ちゃんは任天堂のＤＳを持っているから私も欲しい。どこどこもみんな持っているから欲しいと。そしたら、普通の親は多分こう言う、多くの親はこう言うと思うんですね。よそはよそ、うちはうちと。その中でも、ただ子供がそういうのが欲しいと言ってきたら、そう言うと思います。子供の言い方次第でも、例えば、お父さんと、お小遣いがもう半年間半分にしていいから、ＤＳの欲しか。これは子供のやりくりですよね。それを聞いたお父さんも、そいぎ何とかしてやらんぎいかんと。子供のお小遣い半分にするばってん、自分のお小遣いも少し削って買うてやろうとか、そういうふうになるかもしれません。ＤＳぐらいの20千円ぐらいのやつだったら大丈夫ですよね。そんな家が傾くとか何ともない。例えば、今度は車の話になったと。もっと大きな金額になる。隣はレクサスを買いんさった。うちも欲しかと言いんさるかもしれん。そいぎどがんなるか。例えば、隣が買ったとは、どがんして買うたかわからんわけですね。借金で買うたかもしれん。例えば、株でもうけたかもしれん。例えば、ほかの支出を削って買うたかもしれん。多分その隣とかなんとかも同じなんですよね、収入規模は。自治体も同じだと思います。その中でやりくりをしてやっているわけです。

私もやってほしいことは山ほどあります。例えば、水道料を下げてほしいとか、固定資産税を下げてほしいとか、何々をつくってほしいというのは、もう言うだけなら耳に心地よい、言うだけなら幾らでもできますけれども、やっぱり財政のこと、家計のことを考えて言わなきゃいけないと思っております。例えば、仮の話、水道料を下げるなら、それに見合った金額はどこから持ってくるのか。固定資産税を下げるなら、それに見合った収入をどこから持ってくるのか。反対にどこを削らなきゃいけないのか。そういうやりくりの中でやっていかなきゃいけないです。

私はのび太君にはなりたくありませんので、そういう中で、まず最初に、財政のことをお聞きして、そういう形で、その後にいろいろそういう財政改革をして、浮いたお金でこういうことをしてほしいという意味合いで質問をしていきたいと思っております。

中期財政計画と言っても、合併協議会で出た分ですね。建設計画にのっております。それをずっと見て精査いたしました。その中で、やっぱり平成18年計画時点で狂いがもう生じているわけですよね。例えば、人件費も計画よりも１億円多い、扶助費も多い。平成18年、１年しかたってない段階でですね。そういう中で、この中期財政計画、この計画のまま走っていて本当に大丈夫なのか。10年後には合併の特例が切れる。交付税の段階補正が始まります。そういう中で、この10年間で体力をとってなきゃいけない、今後のためにも体力をつくっていかなきゃいけない。例えば、今、固定資産税を下げる、今水道料を下げる、今、何々を下げるよりも、10年後にきちっと下げられる、そういうふうな形で体力をつくっていかなきゃいけないと思っております。

まず第１の質問で、この平成27年までの財政計画、これで大丈夫なのか。この分を最初お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。一般質問の答弁を開始させていただきます。

御質問の財政計画の話であります。まず、それに入る前に、今の武雄の状況をかいつまんで申し上げたいと思います。

まず、武雄太郎君です。月収が大体300千円と仮定をします。それで、支出が大体1,000千円であります。じゃあ残りの700千円をどこで埋め合わせをしているか。これは地方交付税交付金であったり補助金、いわゆる武雄太郎君の息子の仕送りだということで、700千円の埋め合わせがなっておる。これが今の武雄太郎君の状況。すなわち武雄の状況であります。そしたら、ほかの市、例えば、夕張市はどうなんだということでありますけれども、夕張市は、月収を300千円と仮定すると、支出が3,000千円、そういう状況であります。したがいまして、この2,700千円の部分は、国からの補助金であったりとか、あるいは余り新聞等々で騒がせているような合法的ではない借金のあり方であったりとか、そういった形で埋め合わせをしていると。したがって、こういった観点から言うと、夕張市も武雄市も、ある意味同じであるということが言えようかと思います。

借金はどうなんだと。武雄太郎君の借金状態は、大体20,000千円から30,000千円。これはとらえ方によりますけれども、これがありながら、毎年毎年、国から補助金、交付税をいただいている状況にあります。その上で、牟田議員の質問にありました財政計画については、私はこれについては、今後ちゃんとつくらなきゃだめだというふうに思っております。数値

目標を入れた上で、そしてどれをどういうふうに重点的、あるいは削っていくかというのは、行革の緊急のプログラム、今策定中でありますので、あわせて我々としては市民の皆さんたちに説明をしていかなければならない、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長が答弁いただきましたように、緊急プログラム的にやっていくということなんですけれども、本当にやっていっていただきたいんですよね。物すごく社会情勢の変化が早い。そういう中で、先ほど壇上でも言いました。例えば、扶助費の問題でも、計画では年１％ずつ伸びていくというふうな計画が、もうこの１年で３億円ですよ。５年前とすると、10億円ふえているわけですね。そこからもう既におかしくなっている。おかしくなっているとはどういうことかというと、支出がふえているわけですよ。扶助費が年間３億円ふえている。ことし３億円ですよね。来年３億円以上でしょう、再来年４億円ぐらいになるでしょう。例えば、今度、税率の改正があって、扶養控除とかなんとかで、多分、１億数千万円は収入が自然増になるでしょう。多分、来年の４月分から今までの我々のですね、そういうのがあって、自然増になる。それでさえ１億数千万円の自然増ですよ。その中で、扶助費だけが３億円も上がったら、ふっ飛んでしまうわけですね。ふっ飛ぶどころか足らんわけですよ。じゃあどがんするか。どがんするかというと、例えば、貯金、基金ですね、50数億円あります。それ取り崩してやらなきゃいけない。取り崩し金額も平成18年度計画と決算見込みじゃ、もう何億円も違ってくる。いっぱい取り崩している。さっき上で言いました。ドラえもんのポケットはなかとばですね、そいぎそこの中でやりくりせんぎいかん。

一番簡単な方法というか、一番わかりやすいのは、支出を抑えて収入をふやすですよね。これが基本だと思います。ただ、収入をふやす場合にどうなるかというと、例えば、交付税との関係があります。収入をふやしたら、交付税の計算がそれだけ減らされるので、なかなか難しいところです。ただ、75％から25％はプラスになっていくと、なかなか難しい。効果が出るのは後になってくる。あと９年しかない。９年しかない中で、一番やっぱりやらなきゃいけないのは人件費のところだと思います。人件費も先ほど言いました18年度計画と18年度の見込みじゃ１億円違ってきている。合併協議会の私も委員でしたので、そのときにはこの10年間で100人を減らしますという計算でした。本当に100人でいいのか。交付税算定をするときに、類似団体の標準規模というのがあって、その数字があります。職員数ですね。その数字までは交付税で見てくれる、それより上は自己負担になります。今現在、武雄の一般会計ベースの職員さん、408人。408人の中で、その中で、多分標準財政は300人ぐらいだと思うんですね。100人分は手出しで出している、言い方おかしいですけれども。先ほど市長がおっしゃった収入が300千円、700千円はお金もらっていると。でもそこを抑えたら、物す

ごく自由に使えるお金というのがふえるわけですね。その人件費、本当に100人でいいのか。これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

今、牟田議員おっしゃったように、合併協議会のときに示しました人件費の削減計画ですけれども、これは普通会計ベースで、平成17年４月１日現在の職員数が430名だったのを、平成27年４月１日現在で330人とするという計画でございます。先ほど交付税算入の基準で算定するということでございましたけれども、武雄市をそういうことで算定しますと、308名。18年の４月１日現在の職員数が409名ということで、交付税の算定基準からすると、100名オーバーしていると。これはまさにさっき御指摘がありましたように、自主財源でございます一般財源で充当しているということになります。

ただ、この100名削減計画を立てていますけれども、これが妥当なのかということでございますが、単に職員の削減数だけでは図れないというふうに思っております。まず市民ニーズに対しましての行政サービスのあり方。何をどこまで、どういう方法でとか、財政状況を含めて検討しなければいけないというふうに考えております。本年度、先ほど市長がおっしゃいましたように、武雄市行政改革緊急改革プランにあわせまして、平成18年度を初年度としました武雄市定員適正化計画を策定することにいたしております。計画の策定に当たりましては、組織機構の簡素化、事務事業の効率化、民間委託の推進、施設の管理運営の見直し等によりまして、職員数の削減を行うというふうに考えております。職員数の削減目標につきましても、合併協議会の論議を踏まえながら、新たにイメージをしながら進めていきたいというふうに思っておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

100名でやっていくと。緊急プランで計算していくということなんですけれども、先ほどの数字を聞くと、今400数名、標準は300名、100名減らすとちょうどいいと。それでよかとですか、武雄は標準でよかとですか。もっと武雄は頑張らんぎいかんと。普通の武雄でよかとかと言いたいところなんですよね。というのは、例えば、商売をやっております。商売やって伸ばすため何が必要かというと、資金が自由に使えるキャッシュフロー、資金が必要なわけですね。何かを投資する、何かの次の事業のため投資すると。投資するときに、やっぱりキャッシュフローがなければいかんのですよ。店舗をもう１舗つくる、例えば、店構えを変えたいというときに、キャッシュフローがなければいけない。標準で満足していいのかと。

そうじゃないでしょう、多分。市長は多分そういうふうな期待じゃなくて、もっと期待されていると思うんですよ。武雄市は標準でいいのかじゃなくて、やっぱり一歩進んだところじゃなきゃいけないと思うんですよね。例えば、標準規模に戻すと、標準規模に戻すのはいいと。標準規模にするのはいいけど、それからさらに下げれば、交付税基準で自由に使えるお金がふえるわけですね。旧武雄市で合併しなかった場合に、80人減を標榜されていました。80人減で何とかやっていけるということでした。合併して100人になりました。本来なら80人と合併したら百二、三十人にならなきゃいかんわけですね、計算したら。何で太うなったらそがんなるとかちょっとよくわからなかったですけれども。標準にするんじゃなくて、それよりももっと一歩踏み込む武雄市にならなきゃいけないと私は思いますけれども、市長はいかがお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も牟田議員の御指摘には大部分がうなずくところがあります。その場合の、ただ標準と言ったときに、交付税の標準算定規模というのは一つの目安です。それよりも私は二つの視点を考えたいというふうに思います。一つの視点は、類似団体、すなわち５万3,000人の地方公共団体が、大体どれくらいの規模を抱えているかといった類似団体との比較、これにすれば、武雄市は400人。大体400人というのは私は妥当な数字ではないかというふうに思います。この量の問題です。それともう一つは、職員の質の問題であります。一般的に言って、職員数を下げるということは、その分だけ行政サービスが落ちるということになります。これ落ちないようにするために、10年間かけて職員の資質向上、能力向上を図らなければ、これは私も含めてそうですけれども、図らなければいけないというふうに、質と量の問題があるので、非常にこの数値は難しい問題があります。

その上で、私は基本的に職員を仮に減らすとするならば、私はその処遇はもっと改善すべきだというふうに思っています。もっと公務員になりたいと、消極的な理由じゃなくて、積極的な理由で公務員になりたい。これは議員も同じだと思います。そういう意味で、今の処遇が本当にいいのか。ただし、今の職員の規模では、処遇を上げるというのは、全体の数字からして無理です。したがって、もし減らすということを断行するのであれば、その職員の処遇をきちんと上げなければいけないと。もっと魅力のある環境下に私は付さねばならないというふうに考えております。

そういった意味で、これは極めてさまざまな問題が来ますので、ただ気持ちとしては、牟田議員と一緒であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長から答弁をいただきました。当然といえば当然です。さっきの壇上の方で私が言っていました。支出を抑える中にはどういうことがあるか、収入をふやすとはどういうことか。例えば、県と市の事業、国と県、市の事業。その中で条文に明文化されていない部分、例えば、県負担70％、市負担30％あるとか、県負担50％、市が15％とある場合、きちっと明文化されているときは、それはもう負担は仕方がない。でも、明文化されていない事業もいっぱいあると思います。例えば、仮の話、温泉通りの前、ファサード事業と合わせて県事業でタイル敷いてもらいましたよね。今度、水道事業で布設管の埋めかえしますよね。そういうときに、市の事業、お金でやらなきゃいけない。でも、そういうときには、それは条文に県何％、市何％負担が書いてないですよね。そういうときに、県と交渉して、県からもお金を引っ張ってくる、そういう交渉能力を高める。そうすれば支出が少なくて済む。これも一つの財政のやりくりだと思います。先ほど市長がおっしゃられていた資質の向上というのは、まさにそういう部分だと思っております。

先ほどはもう一つ類似団体という言葉を使われました。400人が適正と。これ市長とちょっと意見が異なるんですけれども、今、５万2,000人規模の同じ類似団体では、大体人件費が39億円なんですね。武雄市は42億円なんですよ。類似団体よりか今現在３億円多いわけですね。だから、３億円多いというのは、どういう形かというと、職員さん１人当たりの人件費、これは退職金積み立ても含めてなんですけれども、大体7,500千円前後。それを割ると、今25人ぐらい多いわけですね。さっき大庭部長が30人という言葉使ったかどうか忘れましたけれども、30人多いわけですよ。100人減らし、プラス30人、私はやらなきゃいけないと思っていると。そういうところをちょっと市長に、こういう数字がありますのでというのを御紹介したいと思います。

今、財政に関して言いました。今、一番手っ取り早い形で10年後に、100人で本当に大丈夫なのか。いろんな話が出ています。前の質問でも、水道料金、そして固定資産税、保険料、下げてほしいという要望が出ていると思います。例えば、固定資産税にしても、下げるのは簡単なんですね。臨時議会開いて、議会で議決すればすぐ下がるわけですよ。ばってんが、下げた分の原資をどこから持ってくるかということを考えんばいかんわけですね。だから、この財政計画というのは物すごく重要になってくると思います。例えば、今、57億円基金があるから、それをつぎ込みます。７年後にはそれがなくなるから、それに備えて別のところを削っていかんぎいかん。昔、石井元市長が行った、言葉でかりると、スクラップ・アンド・ビルドという言葉をよく使われていました。例えば、給食を民営化するのは、別のサービスの向上に使うためですと。幼稚園を民営化するのは、よそのサービスを向上化するためですと。そういうふうな形でやりくりの説明があった覚えがあります。そういう中で本当に

心配なわけですね、10年後が。先ほど夕張市の例も言われました。夕張市の例というのは希有な例ですよね。ニュース特集に出るぐらいの、ただ、どこもそういうふうな危機になる可能性があるという意味での警告だとは思っております。ただ、さっき言ったように、私は財政計画さえきちんとしていたら、ああはならない。そしてもう一つは、今、職員さんの削減の分で、支出減の方を言いました。じゃあ収入増の分ですね。収入増の方は、がばいの方で観光客がふえたりして、市税が増になるという傾向もありますし、多分、市長及び執行部は歩き回られたいろんな企業誘致で、これからの収入増を考えられていたと思います。ただ、この企業誘致とか収入増というのは、さっき言いましたように一朝一夕じゃできんわけですね。例えば、誘致に印鑑を押してもらうまで１年、そして工場を建てるまで１年、仮にですよ。そうした場合に、例えば、そこに誘致するために条件を出さなきゃいけないと思うんですよ。例えば、固定資産税は５年間免除しますよとか、何々しますよと。じゃあ、そのお金が入ってくるのは何年後という形になります。

だから、さっき言ったように、支出の方を早くやらなきゃいけないと思うわけですね。先ほど適正数という言葉で、職員さんの市民に対するサービスの向上、資質ということをおっしゃいました。確かに市長のおっしゃるとおりだと思います。ただ、ここの部分に手をつけて、標準のところに満足するわけじゃなく、武雄はさらに一歩踏み込んで、そういうところを市長に期待しているとみんな思っております。

じゃあ、どうすればいいか。例えば、私はここで何度も言っていると思います。本来、役所がしなきゃいけないと思っているサービスも民間事業に流す。昔は保育所というのを役所がせんぎいかんと思っとったばってん、どんどん今変わっていきよるですね。本当にいろんなところで変わってきていると思います。役所の中で絶対役所がせんぎいかん事業は何か。そこのところを踏まえて、民間委託、例えば、仮の話、市役所の印鑑証明とか住民票とか出すのは、本当に、わからんですよ、私も法的にふなれやけんが。役所が100％せんぎいかんとか、そがんとも例えば銀行さんに委託して、その分浮いたお金で何かをしてもらうとか、わかるでしょう。何かしらそういうふうにしてやって、職員さんの数が低下しても、それに対応し得るだけの住民サービスの低下を防ぐ、そういうことが必要だと思っております。

今後、武雄市役所において、多分、指定管理者制度、ＰＦＩ、そういうのがふえてくると思います。そういう中で、この財政計画、例えばとごっとい言うぎいかんばってん、例えば、こうやって固定資産税を下げたいというときには、やっぱりその減った分の代替えは持ってこんぎいかんですよね。固定資産税減らしますと、仮の話、1.44にします、1.45にしますと。そのかわり都市計画税は掛けますと。そういうのもありますよね、収入を減らさないような形で。今、武雄市は全体的に100分の1.55、周辺部も街の中も1.55ですね。そういう中で、やっぱり周辺部対策、この後言いますけれども、例えば、街と周辺部では格差をつけてやるというふうな形も、これは一つの案で考えられると思います。支出と収入、そこのバランス

でやっていかなきゃいけない。収入をふやすというのは、先ほど言いました、時間がかかるかもしれない。

そういう中で、再度お伺いしますけども、人件費を減らす分に対して市民サービスを低下させちゃいけない。そういう形で今後、指定管理者、ＰＦＩ、いろいろ考えられているとは思いますけれども、もしかＮＰＯですね。そういう方策で、今こういう考えがありますよというのがあったら、ちょっと御紹介いただきたいんですけれども、よろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、我々が考えている具体的にどれを民間に委託したりとか、あるいはＮＰＯと共同するといったことについては、メニューにして、行革の緊急プログラムであったりとか、あるいは一部財政計画に今書き込もうというふうに思っております。個々の事例よりも、むしろそれはパッケージで市民の皆さんたち、あるいは議会の皆さんたちにお示しを私はすべきものだろうというふうに考えております。その上で基本的な哲学については、牟田議員と全く同感であります。特に私がはっと思ったのは、印鑑証明とか住民票を、私もこれは役所がすべきものとずっと思っていたわけですね。私も公務員出身ですし。だけど、それを例えば、銀行さんであったりとか、あるいはどこかのＮＰＯがやったりとか、これはこれで一つのいい案だなというふうに聞きながら考えておりました。しかし、ここには横たわる問題が根拠法律と守秘義務の話があります。しかし、守秘義務については、議員の皆様、既にもう御存じのとおり、だんだんそれは契約に置きかえられている。守秘義務を守りなさいと。だから、公務員の守秘義務、公務員だから守秘義務じゃなくて、その守秘義務を守りなさいといったことで、今手当てがだんだんできる方向になっていますので、それは十分我々の方でも勉強をさせていただければありがたい。そういうことができれば、人件費の総体を下げて住民サービスの低下というのは、ある程度避けられるのかなというふうに、質問を聞きながら、そういうふうに思いました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやっていろんな方式で考えていただくということでよろしくお願いしたいと思います。

本当にいろんなところに目を向けてみると、いろんな方式でやっていらっしゃいます。例えば、やらなきゃいけないと思った水道事業、水道事業もＰＦＩに移している、ＮＰＯに移しているところ、ヨーロッパはほとんど水道事業は民営化されていますね。日本も何カ所か

研究されているところがあると聞いております。そういう形でこの財政計画をきちんと出して、先ほど言いました、標準じゃないと、もう一歩さらに踏み込んで、さすが武雄市と言われるような形で、この財政計画を立てていただきたいですし、何かをするなら何かが犠牲になるというところもきちんとＰＲしてやっていただきたいと思います。

続きまして、この財政計画の中で、この水道事業の方に移りたいと思います。水道事業もですね、これも先ほど言う、値段下げるのもこれも簡単、議会開いて下げますと言うだけで、議決すれば下げられるわけですね、手続だけとしては。下げてくださいと言っても、原価よりも安く供給しているから、なかなか下げられない。自然にじゃあどうやったら下げられるのか。自然に下げるというのは、もう無理ですよね。ただ一つだけ、この起債、借金の返還がこの10年ぐらいがピークですから、それが終わったら、負担が少し少なくなるので、若干は下げられるという言葉は使いたくないんですけれども、負担に耐えられるかなという形で思っております。ただ、それも何にもしなかった場合ですね。新たに起債をしたり何か事業をした場合には難しい。それは安い方がいいですよ、何でも。安い方がいいけど、何かが犠牲になるという形で、やっぱり頭の中に入れていなければいけない。

例えば、９次拡張計画、平成９年に計画されて、10年から実施されたやつですね。一番当初の９拡事業というのは60数億円の計画が出ていました。60数億円の計画が出て、こがんし切るわけなかたいの、議会、そして執行部とけんけんごうごうあって、結局、23億円に落ちついて、23億円の９次拡張計画が始まりました。９次拡張計画は23億円で始まったんですけれども、本当は60数億円。その40何億円というのは、とりあえずこっちに置いておきましょうという形の計画です。この10年で起債が少なくなって、これから後、その後は負担がちょっと軽くなりますけれども、残りの分が山ほど残っておるわけですね。一つは渕ノ尾浄水場もあるかもしれない。そういう形で自然に下げろというのは無理。だから、何かをやらなきゃいけない。だから、さっき言いました収入をふやすか、支出を減らすか。こういう中で供給原価を下げるか、そういう形でやりくりをしていかなければならないと思っております。

そういう中で、やっぱり収入をふやすという形で頭の中に入れると、例えば、もう水道料の値上げですよね、収入をふやす一番手っ取り早いのは。でも、それじゃもうだめだと。既に一番高い水準にあるから。じゃあどうするんだと考えたときに、今、日量約２万トン切れるぐらいのやつを使ってない、捨てている。言い方悪いけど、捨てている水があります。我々商売人にとっては、要らん、どんどん捨てるものがあったらもったいないわけですね。もう何でも売られるものは売りたいわけですよ、安うしてもよかけんがと。

そういう中で、前もこの議会でも出たかもしれませんけれども、ナイスチャンス。伊万里のＳＵＭＣＯですよね。新聞報道とか、自分も伊万里に行ってお伺いしました。日量２万5,000トン使いたいというＳＵＭＣＯからの要望が出ていると。開発当初、操業当初でも、日量最低１万トンから２万トンは欲しいというふうに出ている。じゃあ伊万里が、今、工水、

上水も含めて、どれぐらいＳＵＭＣＯに供給する能力があるかというと、その10分の１、ほとんどないわけですね。そういうときに、武雄はそれを捨てよると、伊万里は足らん。あれっ、それで、そういうときに、これも新聞で見ました。県、伊万里市は川をせきとめて、そこから淡水化とか、いろいろしてつくろうと。その建設費用が150億円と出ていましたね。伊万里市は財政負担が厳しいから、伊万里35％で県65％見てください。つまり伊万里は50億円ぐらい、県が100億円ぐらい見てくださいというけど、県も財政が厳しいから100億円も見きえんばんたと。伊万里市もそがん見きえん。先日の報道によると、半々と、折半だと。75億円、75億円。75億円というと、びっくりするとですよね。伊万里の公債費比率は県下ワーストですよね、ほぼ。20％にもう迫ろうとしているわけですね。そういう中で現金はなかけん起債ですよね、やっぱり。国からの補助はない、県は半分。そして、なおかつランニングコストは市で見らんぎいかん。海に面した塩分が多いところではランニングコストというのは莫大な金額がかかりますよ。そういう中で、ナイスチャンス、武雄と伊万里は接しておるわけですね。例えば、古川議員の地元の多々良、桃ノ川、管を何百メートルかつなぐだけで行くわけですよ。これも試算してもらいました。武雄の負担９億円、伊万里７億円、15億円でできるわけですね。15億円、じゃあ武雄が９億円負担するとか。冗談じゃない、武雄は９億円じゃない。県も70億円出す思いのあると、10億円ぐらいよかでしょうもんと。それで残り５億円ぐらいですよね。５億円をじゃあ伊万里さん、半々ぐらいにしましょうか、武雄の負担、何億円かで。例えば、これを仮に１万トン売ったとする。今、上水で原価300円ですよね。もう100円でもよかですよと。100円だったらどうなるか、１万トンやったら、１日1,000千円ですよね。年間360,000千円。360,000千円ぐらいだと、ランニングコストでペイするわけですね、伊万里も。50円でもよかわけですよ。50円でも150,000千円入ってくる。150,000千円入ると水道料金下げられるわけですね。ただ下げてくださいじゃない。売って金もうけして下げんぎいかんと私は思っております。何でこういうナイスチャンスをつかもうと伊万里がしないのか。僕はそう思いますよ。武雄は何にもなくて今のままでいくわけですよね。伊万里は70億円の建設費とランニングコストという現実の数字が目の前に待っているわけですよ。何で伊万里が動かんとかと。私は反対に、ちょっと武雄さん相談のあるとばってんがと、来るとが。例えば、普通、商売しよるとそがん感じのする、よか方にするけんが。ばってんが、なかなか伊万里さんは伊万里さんで動きにくい事情等々あるのかもしれない。内容は私もわかりません。だから、市長は常々言っています、私はトップセールスマンですと。だから、市長及び関係者はトップセールスに行くべきじゃないか、武雄からアクションを起こすべきじゃないか。例えば、この事業は県が絡んでいます。国は国庫負担補助で多分二、三億円ぐらいしか出さんと思います、今までの通例から言えば。ひょっとすると出して50,000千円ぐらいかもしれない。ほとんど県、伊万里市の負担となります。そういう中で武雄はそういうふうなビジネスチャンス、ナイスチャンスをつかむように動いていただき

たいんですけれども、そういう行動をとるのは可能かどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この問題は、私の答えようで太く新聞に載るけんですね、言葉を選んで慎重に答弁をしたいというふうに思います。

まず、トップセールスという話が出ました。今の状態は、伊万里太郎君のところで、親である県さんが、もう今、ぎちぎちの詰めをしよんさるわけですね。これは先般の稲富正敏県議会議員に対する吉川本部長の答弁だったりとか、前回の伊万里出身の県議会の方に対する県知事の答弁とかいうことになると、我々が仄聞する限り、もう９割５分ぐらい決まってきておるわけですね。ここにトップセールスをかますということになると、これは押しかけになるわけですね。余り喜ばれんかもしれんトップセールスになるので、非常に私は内情は察知をしつつも、隣人として、隣人愛とはちょっと違うような感じを実は受けております。そういった意味で、県と伊万里市さんの、我々も佐賀県を構成する主要な要素だと思っておりますけれども、これは基本的に県と伊万里市の関係だと思っておりますので、そういった動向を注視しております。

どこかのタイミングで、こういう話があると。先ほど牟田議員からあったようなお話があれば、それは直ちに相談には乗りたいというふうに考えております。もしこの話がもう少し前に我々のところに届いていれば、もっと違った展開ができたというふうに思っております。吉川本部長の答弁で、今の貯木場をせきとめて、有田川の水系確保、管を布設して通すというのが一番早い案だと、物すごくこの前の稲富県議会議員の御質問のときに、そのスピードを言われていましたね。だから、そういう意味で言うと、もう県がそういうふうに意思を固めつつありますし、折半という状況も、今私は公式に知事がお話をされたというふうにも聞いておりますので、ちょっと動向を見守りたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

がっかりしました。市長らしくなかですね、がばいを引っ張ってきた市長らしくないですね、と私は思います。知事と市長は先輩、後輩だと思います。がちがちに固まっておるかもしれん。先ほどの県議会の答弁のあっておるかもしれん。ばってん、それで動くのが市長だと思います、それを期待しているのが市民だと思います。水道料金をほかどがんやって下げ切るですか。この方法でしかという限定はしたくないんですけれども、このチャンスを除くといっときあらわれんわけですよ、水道料金を下げるチャンスというのが。今現在でさえ、

お金を貯金を取り崩してやりよるわけですね。それの成功した暁には、もう貯金取り崩しどころか、水道料下げられるわけですね、ためもできるわけですよ。市長らしくないと思いますけれども。私は多分、市民が期待しているのは、そういう隣人愛とかじゃないと思います。武雄のビジネスチャンスを逃すなと、これは多分市長の姿勢で動く方だと、多分先ほどの繰り返しになりますけれども、期待だと思います。動いていいじゃないですか、県が何と言おうが。だから、このビジネスチャンスを逃してほしくない。ほかに水道料を下げる、いろんな要素が貯金取り崩し以外にあったらよかですよ。なかでしょう、部長。なかでしょうと、こっちが言うぎいかんばってんが。だから、本当に今先ほど県との関係、そして伊万里市さんのことは考えなくて、僕は動くべきだと思います。もちろん、その際には知事済みません、こうやって動きたいと思う。武雄と伊万里、三者三様でいいじゃないかと。例えば、放水水利権等ありますよね。水利権の問題もかかわってくると思います。じゃあ水利権は今現在どうなっているのか。上水を工水に使うという問題があると思いますよね。これ法律的な壁だと思う。でも、これも総務省の行政評価局の中で、もう既にそこはなし崩しに認めていっている部分があります。例えば、群馬県の水を東京にやっているわけですね。新潟の水を太平洋側に流しているわけですね。筑後川を有明海に、こっちからぎゅっと引っ張って流しているわけですよ。もう放水水利権というふうな形では、もうそういう形では変わっていっていると思います。なおかつ、道州制に関してのホームページを最近開いてみますと、加速度的に進んでいます。ここでちょっと話はそれるかもしれんけど、関連のあるばってんですね。道州制の話、加速度的に進んでいます。例えば、我々議会も選挙する前の前、合併するなんてほとんど思うとらんやったはずですよ。話も出とらんやった。ところが、今合併してこがんして一緒におる。ひょっとすると、10年後、さっき財政計画の話したけど、10年後、もう道州制でよそと合併しているかもしれん。そういったとき、道州制が進んだとき、どうなるか。新たな再合併、始まりますよね。これは避けられないもの。そういうときに、どういうふうに合併するか。多分、新幹線で反対している鹿島はちょっとこっち置いといて、あと合併するのは、伊万里と合併するかもしれん。そういうときに水利権などなくなるわけですね。今は別の自治体やけん水利権云々と言いよるけれども、将来的に合併したら、水利権はなくなるわけですよ。だからこそ、今動いてほしい。さっきちょっと市長らしくない答弁だったんですけれども、再度このビジネスチャンス、どういうふうに生かそうと思っているのか、再度お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の好きな言葉は、協調と慎重さであります。そういう意味で、私はやっぱり今まとまりよるとに、横やりを入れるというと、私のちょっと政治的信条からすると、なかなかやっぱ

りちょっとしんどかという部分があります。じゃあ、なぜがばいが私がここまでやったかと。これはがばいは呼んできたけんですね。今度は水を決まりよっところに売りつけるごたっ感じになって、私はちょっと余りすると武雄のイメージが悪くなるかなと思っております。ただ、議会でこういったことはやっぱり市長やるべきだと。正直言って、牟田議員の御質問と私の信条は異にしております。しかし、私も市を代表しております。したがって、議会の総意として、あるいは多くの皆さんたちが、市長動けと、動きなさいということであれば、県当局、あるいは知事にはこのことはきちんと申し伝えたいというふうに思います。

そういう意味で、ちょっと私も先ほどのやりとりをしながら考えたいところは考えたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど市長の取ってくるとは好かんもんねと言うばってん、がばいばあちゃんをこの前、市長の説明ではですよ、よその群馬県に決まりかけよるとば取ってきたっちゃなかったかなと、つい思うたとばってん。これはあれですけれども、先ほど答弁の中でも、この議場からもせじゃという声が多かったと思います。多分、議会の方もそう思っておりますので、この議会も多分応援すると思います。ぜひそういう形で、このチャンスを生かしていただきたいと思います。

次の質問に移りたいと思います。次の質問は、教育であります。

今、新聞紙上を騒がしているのはいじめなんですけれども、いじめ自体はほかの議員も質問されますし、それ自体は取り上げませんけれども、これはどこの自治体も、どこの学校も、どの世代も、最近は社会にまで、会社まであるということで、どんどん広がっていると思うので、これいじめとかはちょっとほかの議員にお任せしまして、一つは、私が前から旧武雄市議会のときから取り上げている２学期制、今、旧武雄市内は２学期制、山内町、北方町は３学期制をとられています。その当時は、山内町、北方町の教育長さんにお伺いしたところ、まだ時期尚早だという形で、３学期制をそのまま維持されていました。もう一つの市になったけんが、同じ市の中で、片方は３学期制、片方は２学期制というのは、やっぱりおかしいですよね。どうするか、これは二つに一つしかなかわけですね。二つに一つしかないというのは、教育長の判断で、こういうふうにしたいという形で、校長先生はやっぱりそれに倣うわけですね。３学期制、２学期制、二つに一つしかない。一つは全部２学期制にするか、それとも旧武雄市を３学期制に戻すか、どっちかですよね。

私自身、２学期制のメリットというのがまだわからんわけですよ。２学期制がどがんよかとか。２学期制のメリット、一番のメリットは授業数が足りないから、２学期制にすること

によって、その授業数を確保するというのが一番の問題でした。総合学習の時間がふえるので、その総合の学習の時間をふやしたいと。先生方も例えば、年３回通知表をつける時間があれば、その時間を子供たちに向けたい、２回にして向けたい。始業式、終業式を省かれるということなんですけども。何かメリットが、竹は節々があるけんが強かわけですね。夏休みも、夏休み前に学期の終わって、通知表もろうて、さあこういうところをこがんしましょうということによって、夏休み、そして新学期を始めると。やっぱりそういうふうなめり張りが必要。必要というか、なってくると思います。それは明治の教育制度がつくられて以来、ずっとそれで来ていたわけですね。やっぱり四季折々、そういうことをかんがみてやられると思います。私自身、まだその２学期制のメリットがわかっていない。

内部ではその授業時間数がふえたということをおっしゃいます。ところが、私、前この議会でも取り上げましたけども、じゃあ先生たちの出張、その授業時間が足りないという中で、先生の出張時間はどうなっているのか。先生の出張時間を小学校、中学校、合わせたら、旧武雄市の分だけでも１年間で出張が2,100時間あるわけですね。今言っておるのは、担任を持っている先生だけなんですけれども、補助教員さん、そっちまで含めると、5,000時間ぐらいあるとやなかですか。そんくらいですかね。（発言する者あり）計算してくるのをちょっと忘れました。例えば、小学校で5,000時間、中学校で760時間。担任を持たない先生、これは事務とか給食職員さん別除いてですね。小学校で担任持たない補助教員さんが1,500時間ですね、中学校で1,000時間。旧武雄市内だけで5,000時間も出張しているわけですよ。5,000時間出張するということはですよ、月、ひょっとすると担任持っている先生でも平均２回ぐらいは出張行かれているかもしれない。ほんなごて、これで２学期制のメリットというのが子供たちに出ておるとかと。もちろん先生にも必要ですよね、そのメリットというのは。出張時間が5,000時間、全部で先生の人数が200人ぐらいですかね、200人で5,000時間。ということは、１人頭割ると、ちょっとだれか計算してくださいね。結構多いですよね。だから、その２学期制のメリットというのが私はまだ見えません。それをまず説明をお願いしたいと思います。もう１年たってですよね。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

旧武雄市は２学期制に入りまして、ことしで３年目を迎えたわけでございます。この２学期制を導入する学校長の判断というのは、それぞれ自分の学校の教育経営方針を考えていく中で、自分の学校の学期制というものを、当然年度初めに教育計画を立案する中で吟味をされるわけでございます。

先ほど議員の方から出張のお話が出ましたが、現在、出張は確かに議員さん方御承知のとおり多いわけでございますが、この出張の傾向が課業日と、それから休業日、この二つに分

けて考えますと、以前よりも研修出張、これが夏休みであるとか、あるいは冬休みとか、こういう休業日に移行してきたことは事実でございます。しかし、課業日でもどうしても研修ということで研究発表会で職員の資質向上に資するとか、あるいは業務の連絡会等で、どうしても出張しなければならないというようなことがございまして、努力はしているのですが、課業日で行かざるを得ない出張もございます。それは確かにあるわけでございますが、先ほど申しましたように、以前よりも課業日の出張は減ってきつつありますし、私ども市教育委員会といたしましても、この課業日の出張をなるべく減らすという方向で努力をさせていただいております。

それから、２学期制のことでございますが、先ほど申しましたように、３年目を迎えまして、当初の目的であります、子供たちとの触れ合いというものをじっくり学ばせ、じっくり見て、子供たちの育ちを長いスパンで見ていこうということで、各学校、学期制評価委員会というもので検討をさせてもらっているところでございます。しかし、山内町、北方町におきましては、議員御指摘のとおり、まだ３学期制でございますが、校長会でも、この学期制評価委員会というものを毎回毎回の校長独自の研修会で議題として取り上げまして、これまでの学期制のあり方ということについては、議論をさせてもらっております。山内町、北方町につきましても、学校の研修会で、この学期制というものを視野に置いた教育計画の立案の仕方について、これまでずっときておるわけでございますが、これからもそういう視点で年度末を迎える中で議論が高まっていくだろうと、そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

休業日にふやしてきたというふうな形で言われますけれども、４年前、私が質問したときは1,700時間だったわけですね。今2,300時間ですよ。だから、何のためにインターネットがあるとかと思うわけですね。絶対足を運ばんぎいかんとか、その辺は教育長の責任じゃなかけんが、多分県だと思います、そういうふうな研修とかなんとか使用されているのは。その出張がいけないということを言っているわけじゃないです。２学期制のメリットとして、子供たちに授業の時間が足りないから、それをやると言っているのにかかわらず、出張数はふえているというところに矛盾を感じる。そして先ほど私の質問の趣旨は、２学期制のメリットは何ですかというところだったんですけれども、的確に答えられていない。２学期制のメリットは何ですかという質問だったですよね。いいです。ちょっと時間がありませんので。

私は２学期制にするというのを目標じゃなくて、２学期制、３学期制、ちょうどいいじゃないですか。３学期やっているところ、２学期やっているところありますから。話し合ってどっちがよかかと。だから教育委員会はこれにしたいじゃなくて、どっちがいいでしょうかというボールを投げて、武雄の子供たちに一番いい選択をしていただきたいと思います。ぜ

ひ教育長、そういう形で、３学期制、２学期制、これから先、慎重に取り扱っていただきたいと思います。安易に２学期制にもっていくじゃなくて、きちんと聞くという方式で。前の教育長は、もうもっていくという形で動いていました。だから、何となく胸にひっかかるところがあったんですけれども、これは教育委員会が動かすんじゃなくて、学校長判断できちんとできる体制を整えていただきたいというのが、この教育の部分の一つであり、もう一つ、そうやって総合的学習の時間というのがふえたと思います。これはそこそこの判断に任せられると思います。

これはちょっと話は変わりますけれども、例えば、海外旅行行ったとき、先進国じゃなくて発展途上国の方ですね。例えば、教育を受けたくても受けられない子供たちがいるわけですね。日本で言う小学校、中学校なのに、学校どうするんだ。勉強したいと、勉強したいんだけど、行けない。もう涙の出るごたったですね。勉強する校舎がない。校舎はあるけど、行けない。片や日本の授業はどうなの、ゆとり教育ですよ。何か日本に帰るぎ矛盾点という感じるわけですね。片や勉強したくてたまらない、でもできない。涙の出るごたる。片やゆとり教育と、腹の満腹になるごたるです。何か矛盾点感じるわけですね。本当にこれで大丈夫なのか。

今、武雄市は大きく動いています。市長がかわって、いろんな企画、そして武雄をどんどんＰＲして目に見えています。教育も教育長がリーダーなんですよ。だから、教育もさすが武雄市と言われるようなことをやらなきゃいけないと思います。かつて10数年前、100校プロジェクトで武雄北中学校は、全国の中学校で、ホームページ持っている中学校の四つの中の一つだったんですね。それも武雄北中学校なんですよ。それも今みたいにホームページビルダーとかなんとかで簡単にできるんじゃない。言語を入れてつくるわけですね。ＩＴ超先進校だったわけですよ。ところが今やです。だから、さすが市長も頑張っている、行政側も。教育委員会もさすが武雄市と、さっき言った２学期制にしても、うちはこがんするばい、そしてうちはこがんするばんたと、リーダーシップを発揮していただきたい。

例えば、今、これも前、言いましたけれども、今、日本は円周率パイを３で計算するんですかね、3.14に戻ったんですかね。３で計算すると。台形の計算ももう入れない。よそは九九じゃないんですよ。もう九九九を暗算させているわけですよ。もう負けますよね。例えば、余りよくないかもしれないけど、武雄市で、うちは九九じゃない、武雄市の独自の例で九九九をすると。そしたら全国ニュースで武雄はすごかなと、これは仮の話ですよ。だから、いろんな方策が考えられる。行政も頑張っている。教育委員会もやっぱりさすが武雄市と言われるようにしなきゃいけないと思うんですけれども、やっぱり教育委員会は金太郎あめみたいにやんなきゃいけないのか。ちょっとここら辺を教育のところでお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

さすが武雄の教育と、こういうものを打ち上げてはどうか、こういうありがたいお言葉でございますが、現在、私ども武雄は、夢を持ち、ふるさとを愛する元気な武雄っ子の育成と、こういうことを標榜し、それぞれの学校の教育の特色を出すということで頑張っているわけでございます。

その中で、議員の皆様方も御承知のとおり、トムソーヤプロジェクトというものの中で、地域の教育力、学校の教育力、そして家庭の教育力というものを、それぞれの力を補完し合いながら、日々の育ちをそれぞれの立場から支援していただいているわけでございます。そして、その子供たちの育ちの姿をトムソーヤフェスティバルとして、先般、「がばい輝けたけおっ子」ということで実施をさせていただきました。これは皆様方、多分、お正月には見ていただくと思いますが、子供たちの16校の育ちがどのように地域の皆さん、あるいは学校の教職員の皆さん方、あるいは家庭の御支援というもので変わってきているかというものを見ていただくことに期待をしているところでございます。それぞれの学校では、自分の学校の特色づくりというもので頑張っておりますが、こういう総合的な発表の場というものも私は子供たちに大きな夢を与える場として大事にしていかなければならないと、こういうふうに思っております。今、議員からお言葉いただきましたが、これからも教育委員会としても、いろいろと知恵を出し合いながら頑張っていく所存でございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

頑張っていただきたいと思います。期待しておりますので。すばらしいスローガンだと思います。そういう中で、やっぱり先ほど言いました100校プロジェクトでＩＴ先進国だったのが、だめだった。そういう中でまた特色をきちんと与えていっていただきたいと思います。

今、新聞各紙で言われている中で、教育再生会議という言葉をテレビでも見ます。安倍総理のお声かけでつくられました。昔は、森喜朗首相のときにも同じような組織をつくって、その前の中曽根首相のときにも同じような形つくりました。安倍現総理は、教育再生会議をつくっております。その中でひっかかるところがあってですね、先生の評価を保護者がするというところがあったんですよ。先生の評価を保護者の代表が行うというのがあります。私は、今の教育は、これ私的感想です。今の教育は、子供たちに10やっていたら、親に20ぐらいやりよるような気がするわけですね。親に配慮をする、父兄、そしてＰＴＡに物すごく気を使っていて、先生本来の信念を持った教育ができないんじゃないかと、そこのところを心配するわけですね。例えば、教育再生会議で、保護者に先生の評価権なんて与えた日には、もう先生とか子供５、親は30ぐらいやるんじゃないかという心配があるんですよ。ぜひ、そういう話があったら、けったくってください。そういうのは武雄はしないと。武雄は我々教

育委員会、そして教師でしっかり頑張っていくというふうな形で行っていただきたい。

今、いじめ問題とかありますけれども、先生も大変だと思いますよ。いじめだけじゃなくて。だから、そういう形で子供に本当に集中できる、もうＰＴＡとかなんとかというのは、もうＰＴＡの略は簡単ですね、ペアレンツ・アンド・ティーチャーですよね、一緒にやっていく。だから、そういうことで一緒にやっていく。だから、向こうが主じゃなくて、先生が主なんですよ。向こうはあくまで補助団体。だから、先生たちの信念を貫くような、そういう環境づくりをやっていただきたいと思います。それが武雄市独自の教育だと思います。よろしくお願いいたします。

では続きまして、時間もないことですので、次は人口減対策でございます。

人口減で、周辺部いつも聞いています。いつも聞いていますし、市長かわられてからも前回聞きました。最近、新聞に道路特定財源のやつが出ていますよね。一般財源化すると。道路というのは、本当、地域になくてはいかんわけですね。例えば、北海道、これはむだな道路でしょう、どこどこはむだな道路でしょうというふうにテレビで紹介すると、ああいかにもむだな道路のように見える。でも、近くに住んでいる人たちは、その道路があるおかげで、人口がこのくらい減るにとどまっている。その道路がなかったら、もっとがたっと人口が減っているかもしれない。本当にその道路というのは、そこに住む人間、そして交流する人間にとっては大切なものであります。周辺部を語るとき、やっぱり道路問題というのは避けて通れないと思います。

まず最初にお伺いしますけども、例えば、武雄市は十字、東西南北、主要道路が入っています。まず、私の地元なんですけれども、498号線、これはもう地元説明会もほぼ終わっております。ルートも発表されてですね、きちんと線引きが始まろうとしています。そういう中で、この498号線、今後の展開、そして市の動き方、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

国道498号線の整備につきましては、先般、先週ですね、杉原議長、そして松尾陽輔議員とともに、国土交通大臣に直接お会いをし、意見交換をしました。そのとき大臣がおっしゃったのは、私としても498号線については、伊万里の工業、今、企業進出でだんだんいっぱいいっぱいになっていると。すると、若木の部分、直接言明をされました、ここは物すごく今大型化、大型ダンプの走りよるねと。佐賀弁じゃなかったですけれども、そういうことをおっしゃって、非常に大臣としても、ここが一つのポイントであると。自分としても通したいと。そのとき大臣がおっしゃったのは、地元は大丈夫ねということを私の方に直接投げられました。先ほど牟田議員からありましたように、既に地元説明会を終了し、土地立ち入りの了解を得て、中心線測量の発注準備がもう現在行われているところであります。そういう

意味で私としても非常に今うれしく思っております。今後も地元の議員さん、あるいはいろんな区長さんたちのお力をかりながら、早期事業化の推進に努めていくところであります。早ければ来年の３月には正式の採択が見込まれる予定であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

一番心配だったのは、採択になるかどうかというところだったんですね。そこは採択になる方向になっていると。地元松尾議員、議長、そして市長行って、そういう言葉をもらったなら間違いないでしょう。それで多分一安心できるとは思います。ありがとうございました。

続きまして、今、南北のラインを言いました。次は東西のラインですね。地元のことばっかり言うて、よそは言わんやっかというぎいかんけんが、498号線、それに十字で来ている、これは山内町、北方町を結ぶ大切なラインです。前も質問でここで出ておりました。やっぱり498号線を生かすも、やっぱりそこだけじゃなくて、縦横のラインがきちっとしてないと、地域の一体化、どこだけが不便だという不公平感が出るかもしれない。この35号線、いろんな障害があると聞きました。障害があると聞きましたけれども、ぜひ早期計画着手。我々も車で行っていて、どうしても、例えば、山内町に抜ける道、あのＳ字カーブとかですね、ああいうのがやっぱり物流に関しても何とか大変になってきます。先ほどの498号線に続いて、これもお伺いしたいと思います。今後どうなるのか。そしてその打開策はどうするのか。

以上、お伺いしたいと思いますし、さらに進捗していただくようにお願いしたいと思います。お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

国道35号線については、去る12月４日、私みずからが地権者のもとに出向き、土地取得について、最終的な合意を賜ったところであります。これに至るまで、杉原議長を初めとして、関係の山内の議員の皆さんたちが、私もさきの議会で答弁しましたけれども、７年から８年前から一生懸命やられておられた。それと今回、事務方の古賀副市長を初め、建設部長に一生懸命やってもらった。そういったことが最終的には私がトップ交渉をして合意に至ったというふうに深く感謝をしております。そして、並びに地権者の深い理解がここにあったというふうに思っております。私は地権者の深い御理解、そして御納得に基づいて、３年以内に着工開始をしたい。国と県に対しては、私みずから意を呈して物を申していく。そういう姿勢をしたいというふうに思っております。あわせてここはＪＲの鉄橋があります。ＪＲについても、積極的に私が交渉をしていきたいというふうに思っております。10年来の懸案であ

りました。私がこれを一定のめどをつけた、これについては、「佐賀のがばいばあちゃん」よりはるかにうれしいことであります。市民の安全・安心を守るトップとして、私は一定の仕事ができた。そして地権者の方に本当に感謝をしたいと思います。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

合意できたわけですね。じゃあ３年以内、合意を賜ったということは、もう了解を受けたと。次の質問、できんやった場合に、どがんするかという質問を用意しておったけんですね。９月から急転直下、そういうふうに変わったということは、大変うれしいことです。これは私もずっと議会に所属して、先代、先々代の市長もなし得なかったことですから、これはすばらしいことだと思います。一つの金字塔ではないでしょうか。できなかった場合の質問を用意していたんでですね、すばらしいことだと思います。この35号線のライン、着工３年以内ということは、これはその関係者にとってはすばらしいニュースだと思います。これは質問というか、改めて感謝したいと思いますし、みんな驚愕していると思います。ありがとうございました。これは本当、すばらしいことだと思っております。

では、次の質問に移りたいと思います。地域活性化についてであります。

これは私は前回、この議会で若木町の去年生まれた子供は六、七人と。これを各町で調べてもらいました。武雄町は17年度が160人生まれています。橘町は17名、これは６年後はそのクラスになると思いますね。朝日町は62名、武内町は17名、東川登町は11名。東川登町も11名ですから、もう６年後には11人の入学式を迎えなきゃいけないという形になると思います。西川登は23名、山内町は75名、北方町は57名。年々出生率が下がっている。そういう下がっている中で、その地域の活力を結びつけるというのは、やっぱり人口ですよね。出生率を上げるというのは、なかなか難しい。そういう中で、人口をふやさなきゃいけないということで、ひとつ提案なんですけれども、例えば、うちの若木町、子供たち、去年７人です。６年後には７人の入学式を迎えなきゃいけない。この次はひょっとすると５人かもしれない、10人かもしれませんけども。そういうのを回避したいという気持ちが物すごくあるんですね。

そういう中で、例えば、給食。今いろんな給食について、アレルギーとかなんとか出てくる子供たちがいると思います。そういう中で、そういうのを広く開放して、それに対応する学校づくりができないものか。そうすれば、そういうところに来る子供たちが、親も連れてくるんじゃないか。こういう考え方もありますけれども、その辺のところ、今の問題も含めて、周辺部対策、市長に答えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと私の方から市政を預かる者として答弁をさせていただきたいと思います。

学校給食については、私は武雄は非常によくやっているというふうに思っております。実は、人工甘味料であったり、あるいは人工着色料であったり、非常に武雄は水準を抑えてもらっています。そういう意味で、教育委員会に私はこの場をかりて感謝をしたいというふうに思っております。

その上で、全国のまちづくりで、どういう給食が行われているかということを１点だけ披露させてもらいたいと思います。文科省の特別認定校の扱いを受けて、例えば、福島県であったりとか、あるいはこれは偶然ですけど、若木小学校であります。若木小学校と聞いたけん、あの若木小学校かなと思ったら、板橋区の若木小学校やったですね、インターネットで調べてみて。ここは、すべての人工保存料、あるいは人工甘味料を抑えて、もうだしも昆布から取ったり、非常に受け入れやすいと。それが一つは全国から給食で子供たちを集めよると。これは本末転倒になったらいかんと思いますけれども、こういう方法があるとねというふうに私もびっくりしたところであります。

また、教育委員会とは協議等々は進めてはおりませんけれども、今後、恐らくこういうところで給食、今アトピーとかアレルギーとか、そういう課題等々もあります。それをうまく結びつけてきてほしいなと思います。その場合に、特認校というのは、小規模かつ周辺部が私は望ましいというふうに思っております。そういった意味での政策誘導は、もしこれが仮に実現できることになれば、そういった形で誘導していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそういうのを実現していただきたい。教育委員会の方もよろしくお願いします。

周辺部問題に関しては、この後、同僚の古川議員も詳しく質問されると思いますので、ちょっと質問項目が残っていますので、次に移りたいと思いますけれども、今、市長がおっしゃった、ぜひそういうふうな特認校制度ですね、実現させて、例えば、人口問題と食、そして地産地消、いろんなのを組み合わせて、一つのセットとして事業として、地域効果につけていただきたいと思っております。

では最後の観光です。ちょっと駆け足で済みません。観光なんですけども、まず第１点目に、がばいばあちゃんがありました。私も今ここにバッジをつけていますけども、どがん効果かなと。私は仕事で営業に福岡とか県外に行くわけですね。そうしたら、このバッジつけておるだけで、話のスムーズに進んだとですよ。何々さんの紹介で来ました牟田でございますと。そしてしゃべって、最初んたいは、えっと言いんさるわけですよ。ああそうですかと、

またこういうのがありますのでとか言って、ここを見よんさるわけですね。それ何ねと。がばいばあちゃんですと。この前、テレビで見たよ。そこからこうなるわけですね。昔は私の得意技は携帯電話だった。薄い携帯電話を持っていって、それ薄かねと言われると、いや、私も薄うしてですね、これから入っていきよったばってん、今はこれなんですよね、営業は。がばいばあちゃんです、やっぱり浸透しています。やっぱりテレビの効果ってすごいですね。武雄市ねというのはわかられます、がばいばあちゃんで。だから、私が一番言いたいのは、一般のビジネスチャンスは、こうやってがばい、市長がつくってくれた。それを生かすも殺すも我々商売人だと思います。

そういう中で、さらにこれはおんぶしたいんですけれども、もう一つは、武雄のＰＲで、がばいばあちゃんが武雄であったと、来たときに、やっぱり特産物と食。武雄になかぎ買われん、武雄じゃなかぎ食べられんと。一つはもう「ゆほほ」という形で温泉水ができました。好評だと聞いています。そういう形で、せっかくのがばいばあちゃんを生かして観光客が来たときに、特産品、そして武雄でしか食べられんというふうな形で、そういうふうな特産品と食ですね。やっぱり食というのは物すごく吸引力があると思います。あわせてそういうふうな開発を考えられないものか。県はあっているんですよね。特産品開発何とかうんたら制度というやつで。例えば、いろんな販売ルートを紹介したり、開発費の一部を補助したり、そのパッケージングをやったりと。これをせっかくこういうビジネスチャンス、我々商売人も生かさなきゃいけない。そういう中で、いろんな特産品開発とか、そういう制度は考えられないものか。というのは、何でこういうふうに言っているかというと、今度１月４日に放送がありますよね。１月４日に放送されたときが、この武雄市は旬なんですよ。それから徐々に鮮度が落ちていくわけですね。（発言する者あり）もちろんされると思います。鮮度が落ちていく中で、それを落ちないように、我々今度せっかくもらったビジネスチャンスを生かすために、そういう制度とかなんとかを考えられないのか。これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は非常に危機感を持っております。というのは１月４日に放映がされたときに、恐らく武雄には物すごい電話とか、いろんなのがあると思います。現に今のところ、私のところにも１万人の観光客がふえています。台湾からもニイハオと電話があります。何で私の携帯番号を知っているんでしょうか。そういった意味で非常に注目を集めています。ただ、これも視聴率次第であります。視聴率が20％に乗っかるごと、ぜひ議員の皆さんたちにもお願いをしたいと。今、年賀状作戦であるとか、あるいはきょう公表しますけれども、メール大作戦等々やっていきたいというふうに思っております。ぜひ一歩でも二歩でもこう集まるように、

私はお願いをしたいというふうに思っております。これがとらぬタヌキのなんとか算用に終わらないようにやっていきたいと思っております。

これを前提として、私も議員と全く意見同じであります。政策的には、私の公約の中で、武雄ブランド品の認定というふうにしております。できれば、食を中心として、例えば、山内のチンゲン菜であります。私は生であれを食べたとき、とったすぐに食べたとですね。物すごくおいしかったですね。皆さん、生でチンゲン菜食べられたことあるでしょうか。食べましょうね。おいしかったですね。あれは武雄でしか食べられんわけですね、あるいは山内でしか食べられんわけです。私はこれを旅館とうまく結びつけたいというふうに考えております。そういった意味で、武雄には素材がいっぱい転がっておるです。それをコーティングしてブランド品にするのは、我々の、あるいはビジネスに携わっている皆さんたちの力次第だというふうに思っております。私も頑張っていきます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ちょっと時間になりましたので。ぜひそういうチャンスをいただいた我々側もそれを生かせるような体制づくりをとっていただきたいと思います。

最後に、35号線の問題が片づいたので、びっくりしました。これは一つの金字塔だと思います。

そしてさらに、さっきの水道問題、もうなかなか動けないと言われますけれども、これを動いた暁には歴史に残ると思います。その水道料金問題は、すべての議員が何とか下げていただきたい、市民のために下げていただきたいという武雄の課題ですから、なかなか動けないという、さっきの答弁で、私ちょっとがっかりしたんですけども、ぜひ動いていただきたいと思います。

以上をもって質問を終わります。ありがとうございました。